



▲「一年の行事」コーナーにぜひお越しください

「一年の行事」コーナーの紹介
 日本には季節ごとにさまざまな行事や記念日があります。その一つ一つに意味があり、人々の願いや感謝生活の知恵があります。行事の由来や風習を知ること、より行事を楽しみながら、子どもたちに伝えていくのではないのでしょうか。

町生涯学習センター・図書室

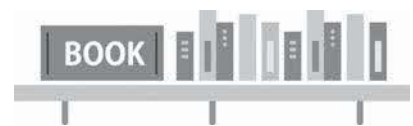
☎ 096-234-2447 (内線331)

■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 毎週火曜
年末年始

■貸出冊数 1人5冊まで

■貸出期間 15日間



図書室では年中行事に関する児童書や絵本の特集コーナーを作り、紹介しています。大人が読んでも興味深く、懐かしい気持ちになります。新しい一年の初めに、ぜひ子どもたちと一緒に楽しみたいと思います。

■0歳児からのおはなし会について
 図書室では、毎月第2木曜日に「0歳児からのおはなし会」を行っています。絵本の読み聞かせや、手袋人形、手遊びうたなど楽しい内容です。子育て中の保護者の皆さん、おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちとお気軽にご参加ください。

■日時
 1月11日(木) 午前10時30分～

■会場
 おはなしのへや(甲佐町生涯学習センター図書室内)

新着図書紹介

小説



この世をば (上・下)
 永井 路子 著/朝日新聞出版
 姉・詮子、正妻・倫子、そして紫式部…。多くの賢女たちに恵まれ、藤原氏一強を確立させた平安の寵児・藤原道長。青年期からの道長を人間味豊かに描き、その生涯を通して平安王朝の権力闘争の葛藤と虚栄を描いた歴史小説。



なれのはて
 加藤 シゲアキ 著/講談社
 テレビ局員・守屋は、祖母の遺品である絵を使って「たった一枚の展覧会」を企画したいと相談され、絵を描いた謎の画家の正体を探り始める。一枚の不思議な「絵」の謎を追い、令和から昭和、大正へ。ある一族の真実とは…。



歌われなかった海賊へ
 逢坂 冬馬 著/早川書房
 1944年、ナチ体制下のドイツ。父を処刑されて居場所を無くした少年は、体制に抵抗しヒトラーユーゲントに闘いを挑むエーデルヴァイス海賊団の少年少女に出会う。「究極の悪」に反抗した彼らの物語に感情を揺さぶられる1冊。

一般図書



長く続けられる美しい庭づくり
 青木 純子 著/主婦の友社
 手間いらずの多年草で長く続けられるローメンテナンスガーデニングを紹介。作業を効率的にすませる工夫、作業のタイミング、便利な雑貨や道具などを、実例写真をつけてわかりやすく解説する。春夏秋冬の庭を楽しみましょう。



妻が余命宣告されたとき、僕は保護犬を飼うことにした
 小林 孝延 著/風鳴舎
 妻の末期がん闘病中、家族は会話もなくなり最悪の状態に。そのとき保護犬を飼うことをすすめられ、出会ったのが「福」。絶望しかなかった小林家に、殺処分寸前だった「福」がもたらしたのは、「笑顔」と「生きようとする力」だった。



絶体絶命アウトドア体験談55
 つり人社書籍編集部 編/つり人社
 危険な生物との死闘、恐ろしい自然の脅威、食にまつわる危機一髪…。アウトドアで思わぬアクシデントにより絶体絶命のピンチに遭遇し、そこから奇跡的に生還した55人の体験談。生死を分けた一瞬の判断に息をのむ1冊。

9月26日(火)、熊本市の本妙寺(加藤清正の廟所(びょうしょ))境内にて行われた、熊本県文化財保護協会主催の「タンポ作りと拓本(たくほん)とり」の研修会に参加しました。

同研修会の歴史は古く、昭和48年、山鹿の装飾古墳での拓本とり時に参加者が誤って古墳内の対象物に直接墨液を塗るという失態があったことから、「正式な拓本の取り方を習得しなければならない」ということで、昭和49年から毎年実施され、来年には50周年を迎えるに至っているようです。

今回は、講師に熊本県文化財保護審議委員・玉名市文化財保護審議会会長の前川清一先生が当たられ、県内の文化財保護委員9名が受講しました。

タンポとは、拓本をとる際に対象物に和紙を貼り、ポンポンとたたきながら墨液を付けていく道具です。40分程で各自2個のタンポを作成しました。

タンポ作成後、境内にある記念塔・石碑などに刻ま

れた文字、紋様に霧吹きで水を吹きかけながら和紙を貼り付け、タンポでたたきながら墨液を付着させて文字や紋様を写しとります。これを拓本といいます。

自我自費ではありますが、初めての拓本とりではありましたが良くてきたと思っています。

今回の成果を町内に存在する石碑等の拓本とりに活かしていきたいと思っています。



同研修会で作成したタンポ(右)と拓本する参加者

お問い合わせ先 町社会教育課 ☎ 096-234-2447 (内線324)

人権 ～心豊かに暮らすために～

部落差別などのさまざまな人権問題の解決を目指して

令和5年度甲佐町学校人権教育部会授業研究会が開催

11月1日(水) 甲佐中学校、乙女小学校、20日(月) 甲佐小学校で「甲佐町学校人権教育部会授業研究会」が開催されました。

同研究会は、教職員の基本的認識を深めるとともに、各学校間の連携を深め、甲佐町内における人権教育の充実と発展に資するために町教育委員会と甲佐町人権教育推進協議会が開催。参加した学校関係者は生徒たちの人権に関する授業を見学した後、研究協議で人権教育に関する指導方法などについて意見交換しました。

同研究会に参加した先生は「さまざまな意見を聞くことができ、とても勉強になりました。差別への考え方を改める機会になりました」、「協力者の先生の話から、改めて自分の差別心と向き合い、学び続けていきたいと思いました。目の前の生徒たちと一緒に差別の仲間の一員となっていきたいと強く思いました」などの感想がありました。

人権が尊重される社会を目指して

学校では、部落差別をはじめとするさまざまな人権問題の解決に向けて、人権意識を培い差別意識の解消に向けた人権教育を推進する必要があります。町教育委員会と甲佐町人権教育推進協議会では今後も学校と連携し、人権教育の推進を図っていきます。

●お問い合わせ先 町社会教育課

☎ 096・234・2447 (内線324)



▲甲佐町学校人権教育部会授業研究会で人権に関する授業を行う甲佐小学校の先生